(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-169253
(P2004-169253A)
(43)公開日　平成16年6月17日(2004.6.17)

(51)Int.Cl.[7]	F I			テーマコード（参考）
D06P 5/00	D06P	5/00	Z	4H057
D06P 3/00	D06P	5/00	D	
	D06P	3/00	A	

審査請求 未請求　請求項の数 2　書面　（全 2 頁）

(21)出願番号　特願2002-369019(P2002-369019)
(22)出願日　平成14年11月15日(2002.11.15)

(71)出願人　591006520
株式会社興和工業所
愛知県名古屋市瑞穂区二野町２番２８号
(72)発明者　末廣　篤夫
名古屋市瑞穂区二野町２番２８号　株式会社興和工業所内
(72)発明者　黒沢　修
同上

Fターム(参考)　4H057 AA01　AA02　DA02　GA10　HA13

(54)【発明の名称】原色染色樹脂製品

(57)【要約】
【課題】
樹脂製品の色合せを容易にする方法と正確な色合せの樹脂製品を得ること。
【解決手段】
赤、青、黄色の三原色及び必要あれば白色で順次染色し、各色の染色時間又は染色回数を変えて色合せする。

【特許請求の範囲】
【請求項１】
赤、青、黄色の三原色及び必要あれば白色で樹脂を順次染色し、各色の染色時間を変えて色合せしたことを特徴とする染色方法。
【請求項２】
請求項１に記載した方法で染色したことを特徴とする樹脂製品。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】本発明は、樹脂の染色方法に属する。
【０００２】
【従来の技術】ブラジャーやスリップのアジャスターは金属に樹脂をコーティングしたものが使われていたが、最近になり樹脂製のアジャスターが実用化された。
アジャスターは布地に合せて色合せするが、布地の色が多くなり、布地と区別つかないぴったりの色合せが要求される。しかし、成形前の原料で色合せするのは困難で、ピッタリの色が出せないことが多かった。そして、染色工程が全体の工程進捗のネックになっていた。そのため、色合せを容易にする方法が必要になった。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】樹脂製品の色合せを容易にする方法と正確な色合せの樹脂製品を得ること。
【０００４】
【課題を解決するための手段】赤、青、黄色の三原色及び必要あれば白色で順次染色し、各色の染色時間又は染色回数を変えて色合せする。管理ポイントは、染料液の濃度、温度、染色時間である。
【０００５】
【発明の実施形態】赤、青、黄色の一定濃度、一定温度の染色液を用意し、それぞれの液に浸漬する時間により色合せする。様々な色は三原色から作れるので、染色液は変えずに使うことができ、無駄に捨てられることは無い。
【０００６】例えば、白色のナイロン製アジャスターで薄紫を出すには、赤４８０秒、青２２０秒、黄２７秒位であり、濃い赤紫では赤５４０秒、青８０秒、黄１１０秒位である。色合せはこのように時間で調節する。また、微妙に色が合わない、例えば赤味が不足しているときは、赤の液に適時追加浸漬して色合せする。次回以降も同じ色目の物を作るには、濃度、温度、時間を記録しておけば再現でき、管理は容易である。
【０００７】樹脂の種類が変わった場合は、原色毎に染色時間を累積しながら色合わせし、次回は原色毎に累積時間で染色する。このような染色方法により製品を無駄にすることがない。
【０００８】樹脂の種類によりその樹脂固有の色を持っている場合、又は原料樹脂に着色した樹脂製品の場合は、同様な方法によりある範囲で色合わせができる。この場合、白色は濃い色を薄くするために用いる。
【０００９】染色された層は、染色層が厚く表面から内部にかけて色の薄くなり方が緩やかである。従って磨耗に耐え、退色性が良い。特に原料樹脂に基調となる色付けをしたものは、製品の角が磨耗しても樹脂の色があるので目立たず美観を保っている。
【００１０】
【発明の効果】本発明により、色合せが容易な染料を無駄にしない染色方法が確立できる。また、多色化し、小ロット化したアジャスターの正確な色合せの製品が素早くできる。従って樹脂製のアジャスターの成形の大量生産と小ロットの色合わせが無駄なく組合され、生産に隘路がない。